

### 3. 各学部・学科の教員養成の理念及び構想

#### ○管理栄養学部管理栄養学科(栄一種免)

わが国では、食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し、食生活の多様化が進む中で、子どもの食生活の乱れが指摘されるようになった。そのような中で、子どもが将来にわたって健康で生きていけるように、食に関する正しい知識を身につけ、自ら判断して食をコントロールする力をつけることが子どもにとって重要である（文科省 栄養教諭制度の概要）。

栄養教諭は、児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる教員として、学校教育の中で食に関する指導において中心的な役割を果たすとともに、学校給食を適切に管理し、教職員間及び家庭や地域との連携・調整で要としての役割を果たすことが求められている（文科省 栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育）。管理栄養学科では、このような社会的使命のもとに子どもに「食の自己管理能力」を身につけさせることのできる栄養教諭を養成する。

本学科は、平成 14 年度の開学以来、栄養教諭の養成を続けてきた。平成 21 年度以降現在までに、60 名を超える卒業生が愛知県、名古屋市および近県の正規の栄養教諭として採用され、それぞれの職場で責任感をもって働いている。各教育委員会の栄養教諭の採用人数が極めて少ない中で本学科の採用実績は、本学科がこの地域における主要な栄養教諭養成課程であることを示すものである。

今後も、栄養教諭の養成を通して愛知県、名古屋市および近県の食育の一端を担っているという自覚と責任感を持ち、食に関するより高度な専門知識をもった栄養教諭を輩出し続けることが、本学科の重要な使命の一つであると考えている。

#### ○ヒューマンケア学部子どもケア学科(幼一種免、小一種免、中・高一種免(保健)、養一種免)

本学科は、養教・保健（中・高）一種免を出す子どもケア専攻と、幼・小一種免を出す幼児保育専攻の 2 専攻から成る。子どもケア専攻は、本学の前身である愛知女子短期大学時代より、多数の養護教諭を育成し、卒業生は愛知県及び近県の学校保健を担う一員として広く活躍している。また、幼児保育専攻も開学以来、多数の保育士とともに、幼稚園教諭、保幼との接続を意識した小学校教育ができる小学校教諭も、名古屋市や愛知県内、また近県の幼稚園や小学校に輩出してきた。

本学科の教員養成の理念は、0 歳から 18 歳までの「子ども」の健全な成長・発達及び社会化を支援するために必要な能力と、多様な子どもに寄り添う「子どもケア」の精神を持ち、幼児教育活動、小学校教育活動、学校保健活動が行える実践力のある人材の養成である。

そのために、①多様な子どもの教育や保護者の支援を行う教員に必要となる、保育・教育学、保健医学・看護学、心理学、社会福祉学の 4 領域の知識・技能を習得し、子どもを生涯発達、関係発達ならびに社会的存在の観点から多面的に理解し、教育とケアの実践的方法論を身につけること、②専門知識・技能を活かして、多様な子どもを受容的・応答的に育む力とともに、子どもの発達特性に応じた教育的ニーズを把握し、子どもに関わる問題や教育の課題を見出し、解決へ向かう方法を思考できること、③子どもの最善の利益を守る人材として、真理探究に努める姿勢を有するとともに、同僚や多職種と協働しながら様々な問題解決に向けて柔軟に取り組むことができる姿勢を有することを、教員養成の目標としている。

子どもを取り巻く家庭や社会環境の悪化の中で、子どもの心身の健康や生活をめぐる問題は深刻化している。それは子育てをする保護者の問題の深刻化をも示している。本学科において、「子どもをケア」する、また「子どもを育てる保護者をケアする」という理念や方法を習得した教員を養成することは、教育に対する社会的な要請に応えるものであると考えている。